

2009年3月期 第2四半期 決算概要

2008年10月29日
NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 中島 俊雄
<http://www.necel.com/ir/ja/>

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2009年3月期 第2四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

- 2009年3月期 上期(4-9月期)業績は、想定に対し円安に推移したものの売上高はほぼ期初の想定どおりに留まり、営業利益は黒字を確保したが、前回想定(7/30)より悪化
- 2009年3月期 下期および通期の期初予想を下方修正したが、下期・通期営業黒字化を目指す
- 生産体制再編の加速をはじめとするコスト削減施策を実行

まず最初に、本日の発表内容をサマリいたします。

2009年3月期上期業績につきましては、1ドル100円の想定に対し円安に推移したものの、売上高がほぼ期初の想定に留まりました。また、営業利益は黒字を確保したものの、前回(7月30日)の想定よりも悪化する結果となりました。

また、10月21日に業績予想の下方修正を行いましたとおり、今年度の経営目標であった最終損益の黒字化は、足もとの事業環境の急速な悪化により、まことに残念ながら、業績見通しの段階で断念せざるを得ない状況となりましたが、下期および通期の営業黒字を確保したいと考えております。

この下期・通期での営業黒字を確保するため、相模原試作ライン閉鎖時期の前倒しなど生産体制再編の加速をはじめとする、緊急コスト削減施策を実行いたします。これにより、上期と比べ約80億円のコスト削減を下期中に実行いたします。

I. 2009年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

それでは本日のプレゼンテーションを目次に沿ってご説明いたします。

I. 2009年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

業績サマリ

NEC

(単位:億円)	09/3期				
	1Q, 6/30	2Q, 9/30	上期, 9/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前下期比
売上高	1,663	1,673	3,336	△174	△32
半導体売上	1,592	1,592	3,184	△157	△8
営業損益	17	△5	12	△6	△20
税前提損益	3	△3	△0	△18	+51
当期純損益	△13	△6	△19	+11	+111
フリーキャッシュフロー	△67	21	△45	△148	+3
D/Eレシオ	0.51倍	-	0.52倍	-	-
株主資本比率	37%	-	36%	-	-
為替レート	1US\$=103円 1Euro=160円	1US\$=108円 1Euro=166円	1US\$=105円 1Euro=163円	対US\$ △15円 対Euro +1円	対US\$ △7円 対Euro +2円

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

NEC ELECTRONICS

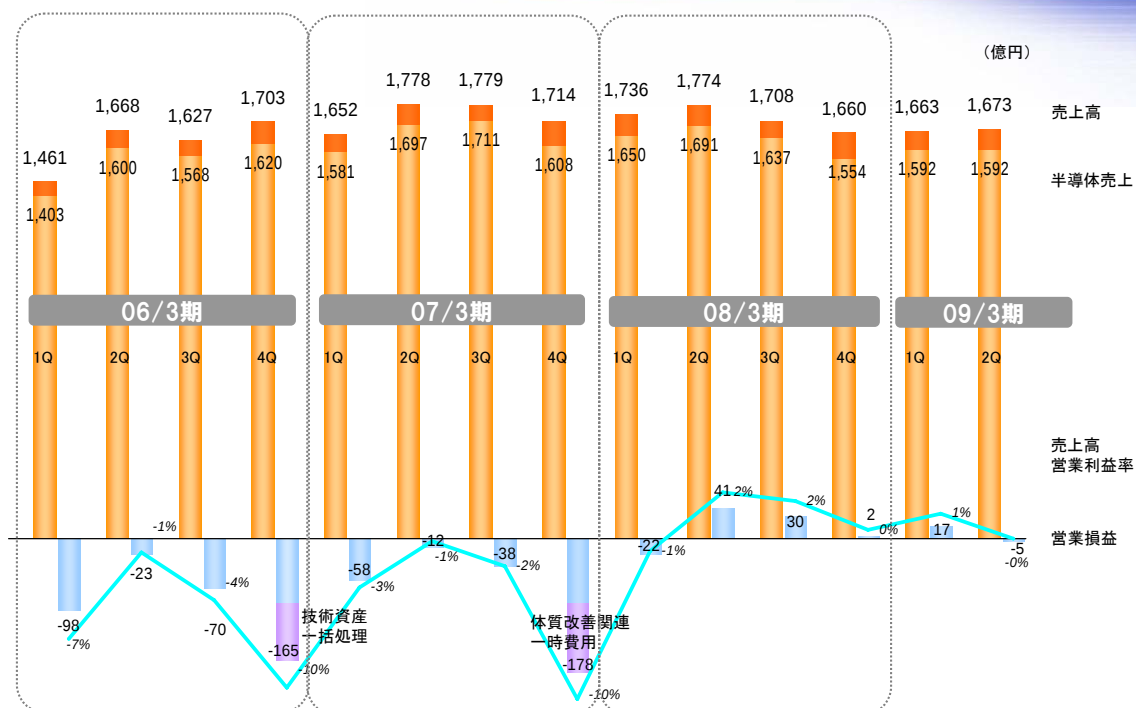
5

まず、上期実績のサマリでございます。

売上高は、前年同期との比較では174億円減収の3,336億円となりました。当社の主力事業である半導体売上高も前年同期と比べ5%、157億円減収となる3,184億円となりましたが、営業利益は前年同期と比べて6億円減少の12億円となりました。

四半期別業績推移

NEC

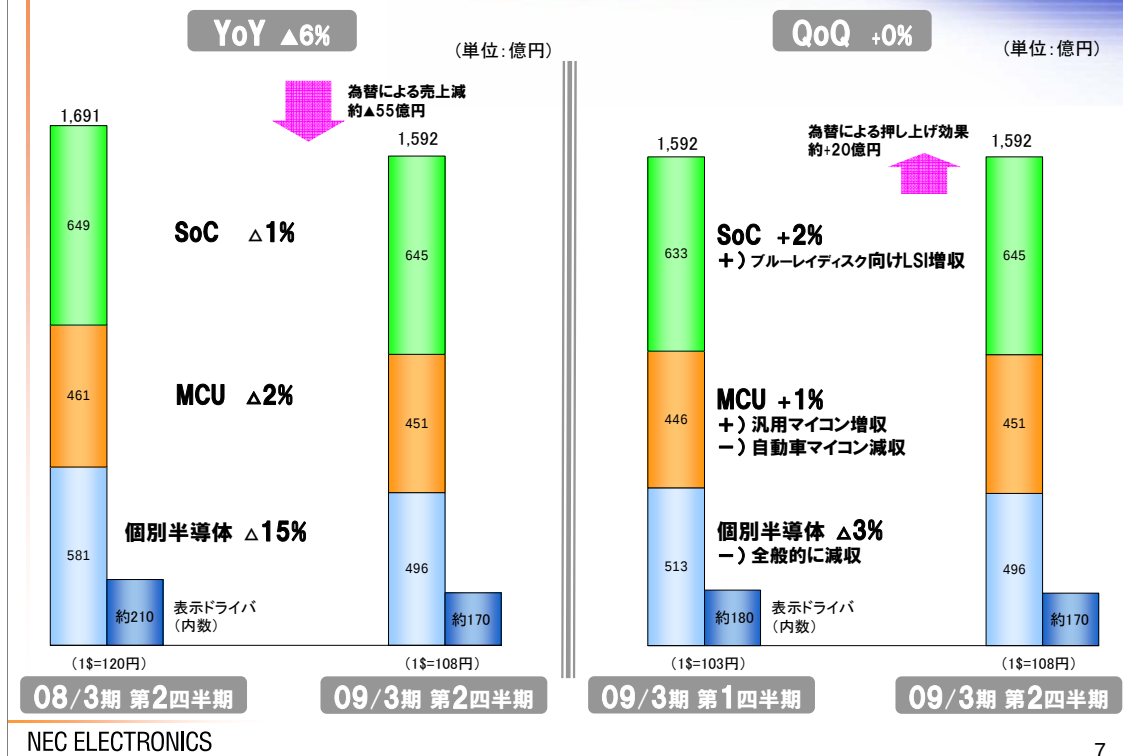


NEC ELECTRONICS

6

次に、四半期ごとの業績推移をみてみますと、第2四半期は季節要因により例年需要が盛り上がる時期である上、想定と比べて円安に推移したにもかかわらず、前四半期と比べて半導体売上高が横ばいに留まり、営業損益は5億円の赤字となりました。

第2四半期(7-9月期) 半導体売上高(製品群別) NEC

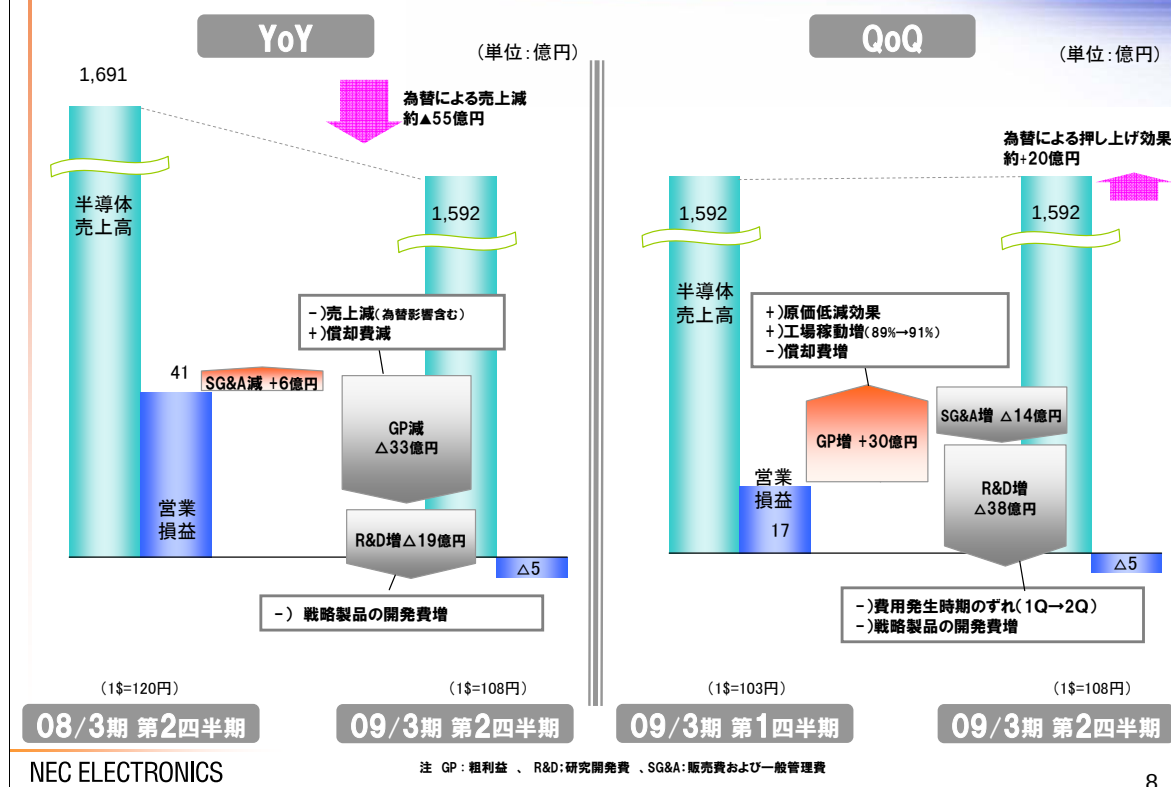


7ページは第2四半期の製品群別の半導体売上高についてお示ししています。

前四半期との比較(右グラフ)では、ブルーレイディスク機器向けLSIが好調だったことなどにより、SoCが2%増収となりましたが、個別半導体の全般的な不調などにより、全体では横ばいとなりました。

第2四半期(7-9月期)営業損益の主な増減要因

NEC



8ページは、第2四半期の営業損益を前年同四半期および前四半期と比較したものです。

前四半期との比較(右グラフ)で示しているとおり、この第2四半期が営業赤字となった要因としては、まずは為替の押し上げ要因があったものの、売上高が伸び悩んだことが挙げられます。また、研究開発費も想定に対して増加しました。これは、前四半期からの費用ずれ込み、注力製品への開発費の増加などがあったことによるものです。

バランスシート

NEC

(単位:億円)		07/9	08/3	08/9
	現金および現金同等物	1,914	1,655	1,580
	受取手形および売掛金	1,003	964	953
	たな卸資産	802	758	820
	有形固定資産	2,825	2,592	2,570
	その他の資産	336	195	297
総資産		6,879	6,163	6,220
	支払手形および買掛金	1,308	1,081	1,119
	社債および借入金	1,329	1,166	1,171
	その他の負債	1,579	1,593	1,629
負債		4,216	3,840	3,920
少数株主持分		53	52	52
株主資本		2,611	2,271	2,248
負債、少数株主持分および資本合計		6,879	6,163	6,220
D/Eレシオ(グロス)		0.51倍	0.51倍	0.52倍
株主資本比率		38%	37%	36%

NEC ELECTRONICS

9

9ページはバランスシートでございます。

8月中旬以降から売上が伸び悩んだ結果、製品のたな卸資産が増加しましたが、今後、圧縮していく計画です。

キャッシュ・フロー

NEC

(単位：億円)	08/3期	09/3期		
	上期	1Q	2Q	上期
営業活動による キャッシュ・フロー	291	42	146	188
投資活動による キャッシュ・フロー	△188	△109	△125	△234
フリー・キャッシュ・フロー	103	△67	21	△45

NEC ELECTRONICS

10

10ページはキャッシュ・フローでございます。

上期のフリー・キャッシュ・フローにつきましては、45億円の支出となりました。

年間のフリー・キャッシュ・フローにつきましては、昨年度同様、黒字化を目指します。

I. 2009年3月期 第2四半期 業績概要

II. 2009年3月期 通期業績見通し

続きまして、2009年3月期の業績見通しおよび下期の見通しについてご説明いたします。

09/3期 業績予想

NEC

下期・通期営業黒字化を目指す

(単位:億円)	08/3期	09/3期								
	年間	上期			下期			年間		
	実績	期初予想 5月14日 時点	実績	差異	期初予想 5月14日 時点	今回予想 10月21日 時点	差異	期初予想 5月14日 時点	今回予想 10月21日 時点	差異
売上高	6,877	3,350	3,336	△14	3,500	約3,300	△約200	6,850	6,600	△250
半導体売上	6,533	3,200	3,184	△16	3,300	約3,100	△約200	6,500	6,300	△200
営業損益	51	30	12	△18	70	0	△約70	100	10	△90
税引前損益	△33	0	△0	△0	40	△約40	△約80	40	△40	△80
当期純損益	△160	△20	△19	+1	20	△約60	△約80	0	△80	△80
為替レート										
1US\$=	116円	100円	105円	+5円	100円	105円	+5円	100円	105円	+5円
1Euro=	161円	160円	163円	+3円	160円	145円	△15円	160円	145円	△15円

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2008年10月21日現在

NEC ELECTRONICS

12

12ページが10月21日に発表させていただきました業績予想修正のサマリです。

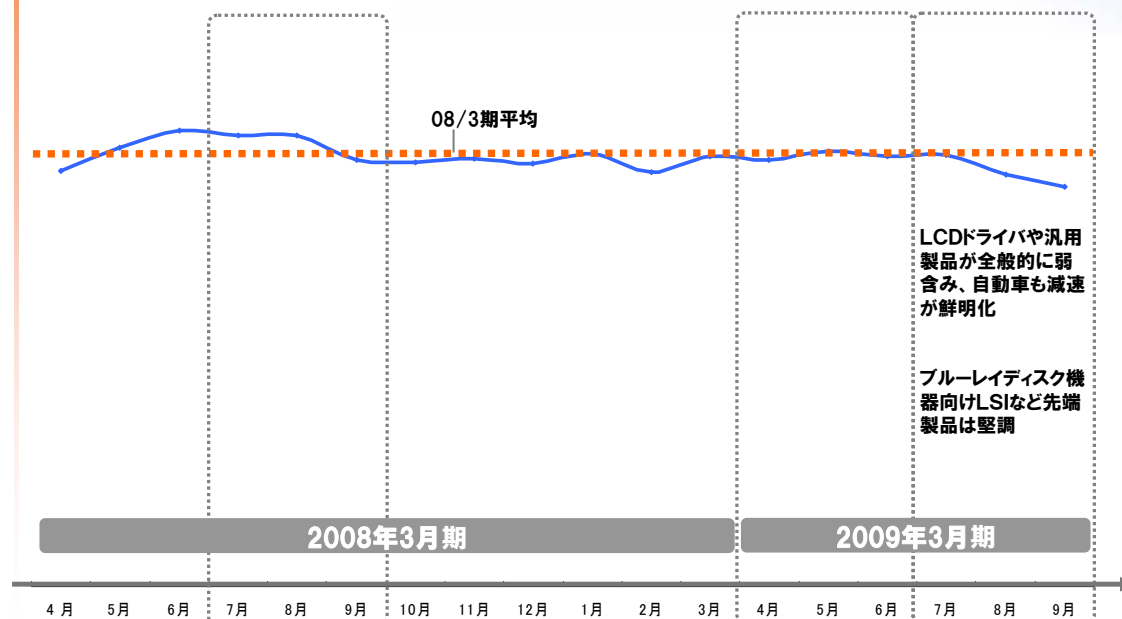
最新の半導体需要やリスクなどを再評価したことなどにより、遺憾ながら今年度の業績予想を半導体売上高で▲200億円、営業損益で▲90億円、税引前損益、当期純損益それぞれ▲80億円の下方修正を行いました。

以下、その内容につき、説明させていただきます。

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）



NEC ELECTRONICS

（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

13

13ページは、いつもお示している半導体受注高の推移を3カ月移動平均で示したものです。

第2四半期の半導体受注は、ブルーレイディスク機器向けLSIなどのSoCは堅調であった一方で、表示ドライバやディスクリートなどの汎用製品が全体的に弱含み、自動車分野についても受注が大きく落ち込んでいます。

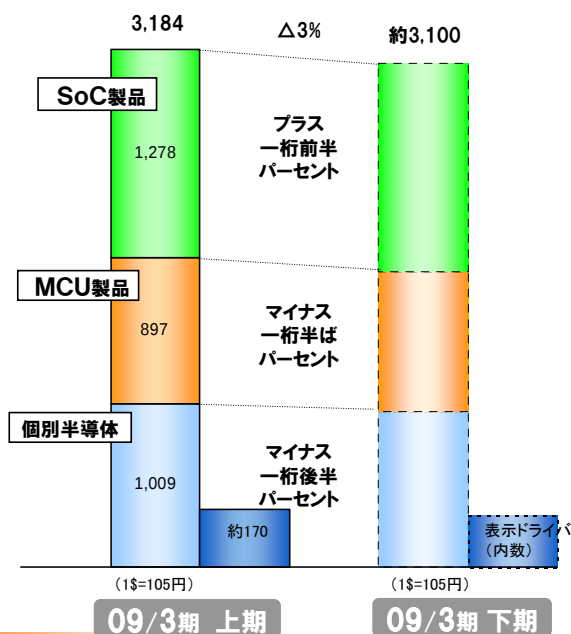
下期にかけても、自動車分野や汎用製品が低調に推移すると見込まれ、当社を取り巻く環境は、引き続き厳しいと認識しております。

下期 半導体売上高見込み（前期比較）

NEC

（億円）

HoH



主な変化要因

SoC製品

- ＋）デジタルAV機器向け“EMMA”
- －）一部ASIC製品で減収

MCU製品

- －）自動車向け・汎用とも売上減

個別半導体

- －）分野全般的に減収

NEC ELECTRONICS

14

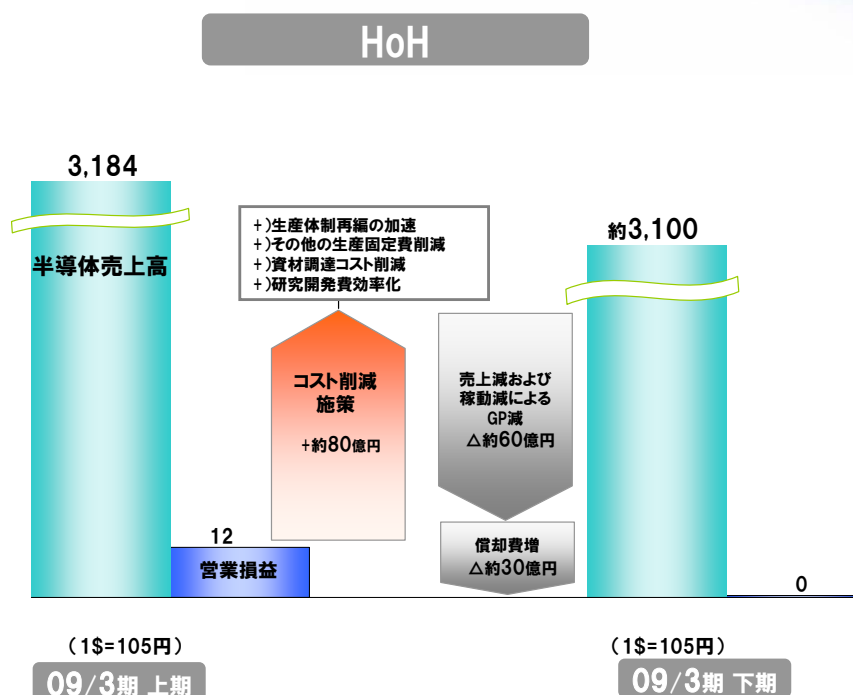
これは、下期の半導体売上見込みを上期実績と比較したものです。

デジタルAV機器向けEMMAなどのSoCは増収を見込んでおりますが、MCU、ディスクリートなどの汎用製品は減収となり、全体で約3%の減収を見込んでおります。

下期営業損益の主な増減要因

NEC

(単位: 億円)



NEC ELECTRONICS

注 GP: 粗利益

15

次に、下期の営業損益の見通しを上期との比較でご説明いたします。

この下期は、半導体売上高の減少による粗利益減や減価償却費の増加などを見込んでおりますが、生産体制再編の加速などのコスト削減施策を実行し、下期で約80億円の費用削減を行います。

これにより、下期の営業黒字化を確保したいと考えております。

下期営業黒字化に向けた主な施策

NEC

生産体制再編の加速をはじめとするコスト削減施策を実施

■ 生産体制再編の加速

- － 山形8インチライン 08年11月閉鎖
(従来は08年12月閉鎖の予定)
- － 相模原300ミリライン 08年12月閉鎖
(従来は09年3月閉鎖の予定)

■ 経営効率の改善

- － その他の生産関連含む固定費削減
- － 資材調達コストの更なる削減
- － 研究開発費の効率化

上期比で約80億円のコスト削減効果を図る

NEC ELECTRONICS

16

今回、緊急に纏めた下期における約80億円のコスト削減アイテムを16ページにお示しております。

まず、生産体制再編の加速については、本年12月に予定しておりました山形8インチラインの閉鎖を1ヶ月前倒して、11月の閉鎖といたします。

また、相模原300ミリラインについては、当初2009年3月の閉鎖を予定しておりましたが、3ヶ月前倒して、本年12月の閉鎖といたします。

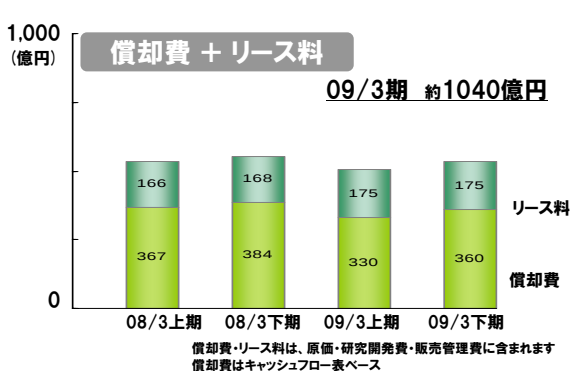
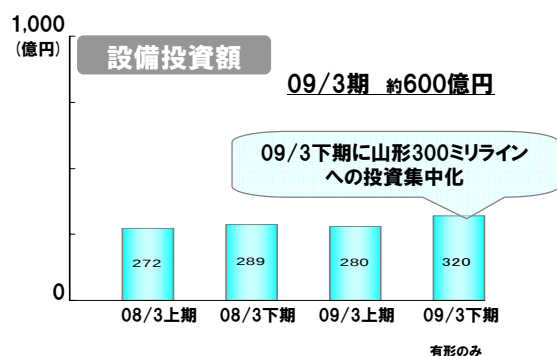
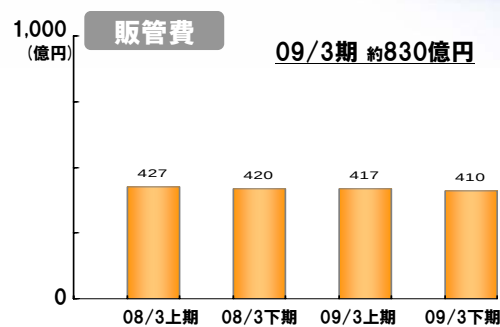
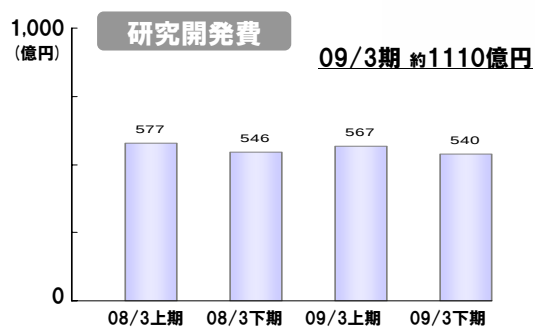
これらの生産体制再編は、もともと来年度のコスト削減に100億円程度寄与することを見込んでいたものでありますが、今回はこの実行を加速することで、今年度にもその効果が出るようにするものです。

また、経営効率の改善施策として、その他の生産関連費用を含む固定費の削減、資材調達コストの更なる削減、および研究開発費の効率化を実施いたします。

これにより、上期と比べ約80億円の費用を削減いたします。

主な営業費用と設備投資の推移

NEC



NEC ELECTRONICS

※最新(10/29現在)の業績見通しの前提となる営業費用および設備投資額

17

17ページは、今年度の業績予想の前提となっている営業費用、設備投資額などをまとめてお示しております。

年間の研究開発費は1,110億円、販売管理費は830億円の前提となっております。

設備投資は期初の計画どおり600億円としておりますが、山形の300ミリラインは依然稼働率が高く、来年度以降の能力増強に向けて同ラインへの追加投資をこの下期に行う計画です。300ミリラインへの投資増加分は、設備投資の更なる効率化やOEE(Overall Equipment Efficiency) 改善活動などにより吸収いたします。

事業環境の悪化に伴い、09/3期下期・通期の業績見通しを修正

業績目標は引き下げるものの、追加的なコスト削減施策を実行し、下期・通期での営業黒字化を目指す

- **事業環境が更に悪化することを想定し、より一層のコスト削減施策を検討中**

最後に本日のまとめでございます。

事業環境の急速な悪化に伴い、誠に遺憾ではございましたが、今年度下期および通期の業績見通しを下方修正いたしました。

しかし、業績目標は引き下げるものの、生産体制再編の加速や、経営効率改善施策を実行し、下期および通期の営業黒字化を目指してまいります。

また、事業環境が更に悪化することを想定し、より一層のコスト削減施策を検討中でございます。

今年度の下期、通期の営業黒字化は来年度の成長に向けた重要なステップであり、これを達成すべく、全社一丸となって邁進する所存です。

引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

ありがとうございました。

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与える重要な要因としては、（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因があります。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

1. ビジネスハイライト

- 先端プロセス開発での協業
- 注力製品の進捗

2. 分野別売上高推移

最先端プロセス開発での協業

**IBMと32ナノメートル以降の最先端プロセス
開発で協業**（2008年9月17日発表）

- 世界的なプロセス・IPコア共通化の動きに参加

注力ビジネス 進捗状況

DRAM混載LSI

- 採用アプリケーションの拡大（デジタルAV、携帯電話、通信機器、車載向け等）
- 商談件数の着実な増加と顧客の拡大

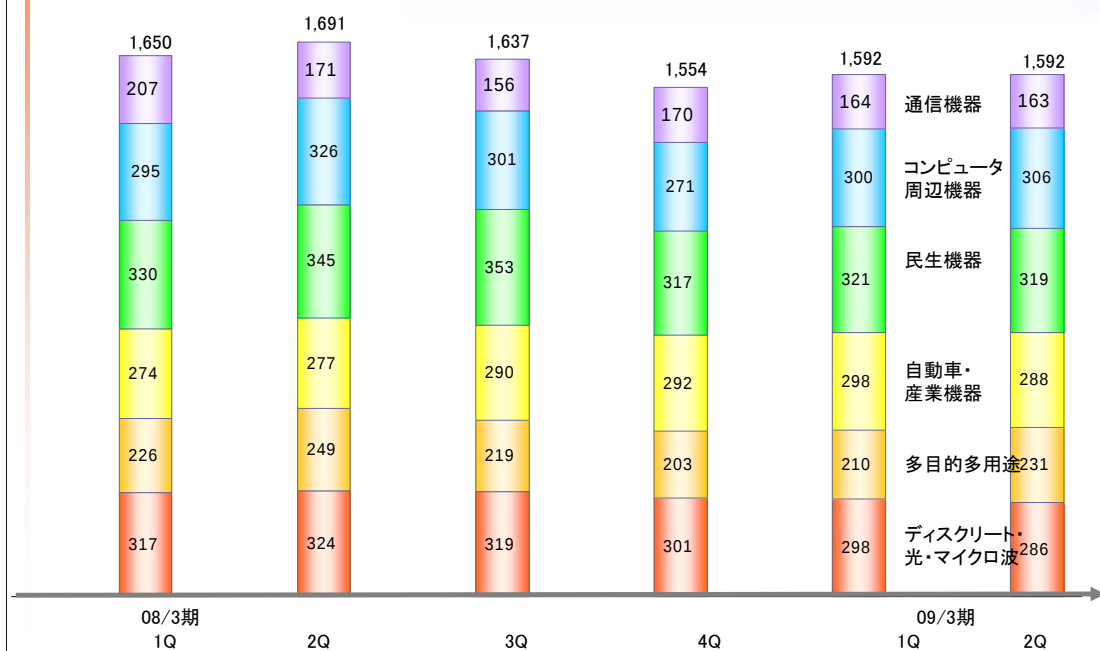
EMMA (Enhanced Multi-Media Architecture)

- ブルーレイ関連の新規商談拡大中
- デジタルTV向けEMMA商談の拡大

参考：分野別 半導体売上高

NEC

(単位:億円)



NEC ELECTRONICS

22